

第3章 都留の自然と観光とその魅力

社会調査・地域調査 B 自然と観光班

メンバー：井川絵美 神村幸恵 北川瑤子 鈴木彰一

はじめに

富士山が近く、山に囲まれている都留。その都留でキャンパスライフを送るわれわれにとって切り離せないものが自然環境である。都留の豊かな自然とは具体的にどのようなものだろうか、またその自然環境資源を活かしてどのような観光事業が行われているのだろうか。われわれ「B 自然と観光班」は、自分たちの足を使って市内の自然探訪を行いながら、都留市や民間事業主体が自然環境資源を観光にどのように活かしているかについて考えていきたい。

3.1 都留市の自然観光資源 ——文献調査・フィールド観察

3.1.1 都留の水資源

桂川

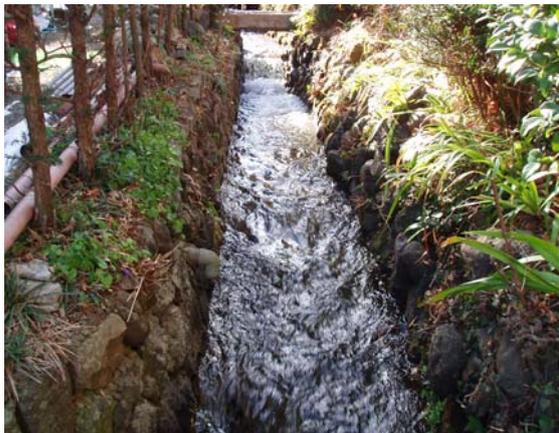
都留市内を流れるもっとも大きな川である「桂川」は、富士五湖のひとつ、山中湖を水源としている。山梨県と神奈川県を流れて相模湾に注ぐ全長 113km、流域面積 1,680 k m²の一級河川であり、流域面積の 66%に相当する 1,116 k m²は森林が占めている。これは全国的にみても高い数値である。山梨県内の流域範囲の名称は桂川だが、神奈川県に入って相模湖を越えてからは「相模川」と呼ばれている。また河口付近では「馬入川」という呼び名もある。流域には山中湖をはじめ河口湖、西湖、忍野八海、明海湖などの天然湖沼や、相模湖、津久井湖、奥相模湖、城山湖などの人造湖がある。上流域では、富士山、御坂山地、丹沢山地、大菩薩山地などの山地が桂川を囲み、この山々をぬうようにたくさんの支流が合流している。

都留市では、桂川が本流となり、それに周りの山から流れる支流が合流するかたちになっている。上流から鹿留（ししどめ）川、柄杓流（ひしゃくながし）川、大幡（おおはた）川、菅野川と戸沢川の水を含む朝日川、の順で合流している。都留市だけでも 6 本の支流があり、水資源が豊富なことがわかる。都留に住む人びとの生活は、桂川を中心とする水資源に支えられてきた。



川と暮らし

川と市民の暮らしが実際どのように関係しているのか、市内を探訪して調べてみた。



都留の水が豊富なことをもっとも強く感じさせたのが水路の多さだ。道の脇には必ずといっていいほど水が流れていた。



鹿留にある水力発電所。水がエネルギーとなり直接生活に関わっている。



ゴミが目立った。川が綺麗なだけに残念。ポイ捨てであろうカンやペットボトルが多く見られた。やはり一人ひとりのマナーが大切である。

川はさまざまな面で市民の生活に役立っている。だからこそ大事にしなければならないのである。

田原の滝



十日市場にある田原の滝。昔は30m以上もある1段の滝だったらしいが、現在は、工事が行われて3段になっている。増水時の地盤侵食が激しかったため工事は仕方がなかったらしい。本流の桂川にある滝だけあって大きく、水量も多い。有名な俳人の松尾芭蕉が「勢ひあり氷消えては瀧津魚」と詠んだほどだ。勢いよく流れていたことが想像できる。筆者は台風の後の様子を見に行っていたことがあるが、水量がかなり増えていて1段目と3段目が隠れてしまっていた。

次郎滝



東桂駅の裏手にある次郎滝。柄杓流川に降り注いでいる。夏狩公民館の向かいの、民家に挟まれた小さな道を抜けて坂を下れば滝の前に出る。この滝の水は、川が流れ落ちているわけではない。崖から水が湧き出して落ちているのである。滝の上は住宅地なので不思議である。数十メートルにおよぶ範囲で湧き出ているので、滝幅も広い。筆者が冬に撮影に訪れたときには、一部氷るっているところがあった（左の写真の左側に白く写っているものはツララである）。氷の世界で見るともいいが、夏に見れば、また涼しげでいいだろう。ゴミが多いのが残念だが、なかなか美しい滝である。

(鈴木 彰一)

3.1.2 都留の山と生物

都留の山

都留には、以下の山々がある（下線は「山梨百名山」に含まれているもの）。1,000m級の山も数多く、都留は山に囲まれた地形である。

<u>高川山</u>	976m	<u>今倉山赤岳</u> （パノラマ展望）	1,470m
<u>九鬼山</u>	970m	<u>二十六夜山</u> （日本花の百名山）	972m
高畑山	982m	御巢鷹山（豊富な高山植物）	1,775m
<u>菜畑山</u>	1,283m	赤鞍ヶ岳	1,298m
文台山	1,198m	<u>本社ヶ丸</u>	1,631m
<u>御正体山</u>	1,682m	<u>三ツ峠山</u>	1,785m
<u>石割山</u>	1,413m	木無山	1,732m
鹿留山	1,632m	倉見山	1,256m
<u>杓子山</u>	1,598m	清八山	1,593m
鶴ヶ鳥屋山	1,374m	城山（勝山城跡）	571m

（「都留市トレッキングマップ」より）

山と植物

「富士の裾野が蔓のように伸びていたので、この地が『つる』（都留）と呼ばれるようになった」という説があるように、都留は少なからず富士山と関係が深いように思う。都留市を他の市と比べると、海拔 490mの土地であるという点がまず特徴に挙げられる。比較的に高地であるため、低地の気候と若干異なり、この土地に生息する動植物にも特徴がみられる。さすがに、道端に高山植物が生えているというほどではないが、近隣の山に登れば比較的容易に高山植物が見られる。

高山植物が美しいと定評があるのは三ツ峠である。他の山々にも美しい高山植物が見られるが、三ツ峠付近で観察される植物には県の自然記念物に指定されているものも多い。シデシャジン、フジグロセンノウなどの珍しい植物のほか、トリカブト、ハクサンフウロ、コニユリなども咲いているらしい。標高に応じて珍種の植物が観賞できるため人気があるようだ。低い高度にはクマガイソウ、ヤマハハコ、コアジサイが見られ、ヒノキ、アカマツ、ヤマハンノキの林の下にミヤマエンレイソウ、ホタルブクロなどが咲く。高い高度へ行けばヤマトリカブト、フジアザミ、ホツツジ、コヨウラクツツジ、ミツバツツジなどを見ることができる。（「Fujigoko Cyber City ホームページ」）

「郡内風露」

「郡内風露」（グンナイフウロ）という花がある。「郡内」（ぐんない）というのは、山梨県東部の富士吉田・都留・大月の3市と南都留・北都留の2郡の地域を指す名称であるが、この花は、南北両都留郡内で発見されたため「郡内風露」と命名されたい。フウロソウ属は日本に10種類あり、そのなかでハクサンフウロは高山植物としてよく知られている。グンナイフウロは深山に生え、花の茎頂には散房状に蜜がつき、花色は紫味が強い。花柱は長く、小柄のものの場合、果実をつける頃でも反り返らない。（『百科事典マイペディア 電子辞書版』）

梅の花

都留市の「市の木」はアカマツであり、鳥は鶯、そして花が梅である。鶯が梅の枝にとまって鳴く構図を想像してみるととても美しい。そしてその背景に富士山を重ね合わせるならば、なおさら、ことのほか美しい構図となるだろう。なぜ市木が梅なのかははっきりとはわからなかったが、市指定天然記念物である上大幡の八房の梅にちなんでいるか、もしくは、市内の梅がワインにも加工されるほど特産物であることによると想像される。

(北川 瑤子)

都留の生物

桂川周辺に生息する動物や植物には次のようなものがある。

魚：	サワガニ、イワナ（天然および養殖魚）、ニジマス
カエル：	ヒキガエル、ヤマカガシ
鳥：	キセキレイ、カモ、アマサギ
トンボ：	イトトンボ、カワトンボ、シオカラトンボ、オニヤンマ、ヤゴ
ホタル：	ゲンジボタル、カワニナ
哺乳類：	カワネズミ
植物：	オニグルミ、ヨシ、ミゾソバ、ユキノシタ、カワラナデシコ、落花生

また、このほか桂川にはアカネズミ、サワガニ、カジカガエル、ムササビ、ニホンザルなどの小動物も生息している。

(井川 絵美)

3.1.3 都留市の特産品

文献や資料、ホームページなどの情報を通じて、市内の特産品についてまとめてみよう。

水掛菜

カルシウムや鉄分が豊富なアブラナ科の野菜で、特にカルシウムの量はホウレンソウの2倍あるという。年間を通じて水温13度前後の富士山の湧き水で栽培され、日本一の生産出荷量を誇る。癖はないが、少しほろ苦い独特の風味と歯ごたえがある。稲作を終えた田んぼに湧き水を引き入れ、水をかけ流して栽培する。水掛菜の名は「水を掛ける」ことに由来する。都留ではたんに「水菜」と呼ばれているが、京菜を指す一般的な水菜とは異なる。

水掛菜は、明治時代前期、水田の裏作として、新潟県から都留市や富士吉田市、静岡県御殿場市など富士山麓地帯に導入され、おもに自家用に小規模栽培されてきた。都留市では、西部の夏狩・十日市場の両地域で、冬枯れの季節に貴重な青野菜として栽培されており、都留市の特産品となっている。市内の27戸の栽培農家が毎年10月、刈り取り後の水田計1.2ヘクタールに種をまき、年末から3月ごろにかけて、栽培と収穫を行っている。都留市農業委員会では、2004年度に水掛菜の生産者組合を設立する準備も進めている。「都留市の特産品として全国に売り込みたい」と意欲を示している。

甲州織

郡内地域で織られた織物は「郡内織物」と呼ばれ、今日では統一ブランド「甲州織」に改名されて、

全国に知られている。織物がつくられるまでにはさまざまなプロセスが必要であるが、郡内地域は「先染め、細番手、高密度、紋織り」技術を有する全国有数の産地であり、織物に必要な糸を扱う糸商から製品を流通させる問屋まで、繊維産業に必要なすべてのラインが1つに揃っている。製品には、婦人服地、ネクタイ、服裏地・袖裏地、リビング分野、洋傘、マフラー、スカーフ、ハンカチ、タペストリーなどの和洋雑貨がある。

わさび

都留市のわさびは、夏でも涼しく清らかで冷たい富士の湧き水が常に流れている場所で、80年も前から栽培されている。わさびには殺菌力があり、ビタミンC含有量が高く、また食べ物の消化を助ける作用があると言われている。都留市では、もっとも新鮮で風味が高いとれたての「生わさび」を味わうことができる。静かで暖かい傾斜地に年間を通して栽培される「生わさび」は、東京方面に出荷されていく。わさびに咲く白く可憐な「わさびの花」は料理の引き立て役として飾られるため、東京方面の高級料理店に出荷される。また時間をかけて「わさび漬け」に加工されたものは県内の観光地へ出荷されていく。

夕顔（ゆうがお）

南都留地域では古くから夕顔が栽培され、味噌汁やお吸い物の具、しょう油のあんかけなどにして食されてきた。一般にかんぴょうの原料として栽培されている「だるま型」のものとは形状が違い、筒状で長い。肉質は「だるま型」と変わりなく、かんぴょうにすることもできる。富士吉田市に青果市場が設立され、需要も増えてきた昭和40年頃から、都留市内の各地で市場出荷向けの栽培が盛んに行われるようになった。高齢化や価格の低下などから栽培者は減少したが、現在も夏場になるとスーパーや直売所、八百屋の店頭などに並ぶほか、家庭菜園でも多く栽培されており、地域の代表的な野菜のひとつとなっている。

梅・梅ワイン

都留市産の良質な梅を厳選して造られた「つるのわいん梅小町」。都留市古渡にある数軒の農家で造られた梅を生のままペースト状にして発酵させたワインである。さわやかな口当たりは、3年目を迎える今日、県内外で話題になっている。特に、リニア実験線見学の際、購入する人も多く「梅の香りが口の中に広がる」とその人気は上々のようだ。「都留市ふるさと会館」「リニア見学センター」「芭蕉月待ちの湯」の3箇所販売されている。

菓子類・菓子舗

「すがや」は、5代目が店主をつとめる老舗和菓子店である。看板商品の「八端最中」は黒こし、白こし、大納言がある。小豆の選定から始まり、皮むきから蜜漬け、練り上げまですべてを手作業で行う餡作りは、季節、湿度、温度までも気を配る職人技で、中に入れる餡の種類によって、最中の皮の食感も変えて作られている。1日に作る数が限られているため、夕方には売切れてしまうこともある。

「ならや」は、万人に好まれる優しい甘さで人気の創作菓子店である。お土産に人気があるのは「お菓子とうふ」で、豆乳を使い、しっとりとした白いカステラ生地、ゴマや梅、ゆず、オレンジなどの風味の豊かな餡を挟んだ半生菓子である。季節によって栗やイチゴなども登場し、冷蔵庫で冷やし

て食べるとよりおいしい。そのほか、ムースのような口溶けの「半熟チーズケーキ」や、卵とクリームの濃厚な味わいの「半熟つつるプリン」、店内の窯で焼き上げたできたてのシュークリームなどの創作洋菓子も人気がある。

いずれの店も、富士急行線都留市駅から徒歩5分の場所にある。

(神村 幸恵)

3.2 都留の観光政策について

都留市と山梨県の観光政策についてみてみよう。

都留市の観光政策に関わる組織は市役所の「産業・建設部」のなかにある「産業観光課」である。産業観光課はさらに「農林振興担当」「商工振興担当」「リニア見学センター」「観光振興担当」に分かれている。産業観光課の組織と「観光振興担当」のおもな業務は以下のとおりである（「都留市役所ホームページ」）。

産業・建設部_____産業観光課

|__農林振興担当

|__商工振興担当

|__リニア見学センター

|__観光振興担当

観光施設および公園に関すること

観光資源の保護および開発に関すること

宝緑地広場の管理に関すること

都留いきものふれあいの里の管理に関すること

グリーンロッジの管理に関すること

鹿留緑地広場の管理に関すること

温泉施設の管理に関すること

リニア実験線に関すること

観光関係団体との連絡調整に関すること

その他観光振興に関すること

いっぽう、観光政策についての県レベルでの取り組みをみると、山梨県庁のなかで、観光振興政策に中心的に関わっている部署は「観光部」である。さらにそれは「観光企画課」「観光振興課」「観光資源課」「大阪事務所」に分かれている。各課・各担当のおもな業務は以下のとおりである（「山梨県庁ホームページ」）。

観光企画課

「観光立県富士の国やまなし観光振興戦略」に基づき、「魅力ある観光地作りと温かいもてなしの基盤作り」「強力な情報発信」「県民挙げての観光立県推進体制づくり」に向けた取り組みを進めていく。

総務経理担当

- ・ 部内、課内の予算経理および総務
- ・ 部内の監査
- ・ 旅行業の登録及び指導

- ・観光客動態調査 ・民宿経営施設等整備資金の貸付
- ・国際観光旅館、ホテルの指導

企画担当

- ・観光立県富士の国やまなし庁内推進本部の運営 ・フィルムコミッションの運営
- ・魅力ある観光地づくりモデル事業推進 ・多様なツーリズム事業推進
- ・エージェンシー機能の強化

観光振興課

- ・もてなし事業の推進 ・観光ボランティアガイドの育成 ・山梨の味づくり
- ・観光キャンペーンの展開 ・国際観光の振興 ・都市農村交流の推進
- ・県産品の販路開拓 ・地域地場産業振興センターの指導など
- ・社団法人 山梨県観光物産連盟の指導など

観光資源課

山梨県内の豊富な自然や景観、歴史、文化資源を活かし、守り、「県民挙げての観光立県推進体制づくり」に向けた取り組みを進めていく。

資源管理担当

- ・観光施設維持 ・観光地美化推進

富士山・山岳担当

- ・山岳観光の推進 ・山岳トイレの整備促進 ・富士山安全対策
- ・富士山の環境保全、適正利用対策 ・富士山ボランティアセンター運営

景観・整備調整担当

- ・景観対策 ・観光サインの整備 ・やまなしの歴史文化公園

大阪事務所

山梨県大阪事務所は関西における山梨県の総合窓口である。

- ・関西地方における県行政に関する総合窓口
- ・観光立県富士の国やまなしの展開と山梨ファンの拡大
- ・山梨を知ってもらい、来てもらうための情報発信（山梨の魅力のセールス）
- ・県産品の販路拡大および物産振興につながる物産展の実施
- ・観光店の実施による観光地の宣伝、観光紹介
- ・企業誘致活動および情報の収集
- ・リニア中央エクスプレスの早期実現に向けた普及啓発活動（世論喚起）
- ・県内就職希望者への就職情報の提供
- ・大阪山梨県人会および愛知山梨県人会への支援活動
- ・関西で開催される各種イベントの支援

(井川 絵美)

3.3 インタビュー調査

3.3.1 「FISH・ON! 鹿留」へのインタビュー

「FISH・ON! 鹿留」は、都留市内南西部の鹿留溪流沿いにある、フィッシング（釣り）を核とした民間の複合レジャー施設である。鹿留川の溪流に沿う敷地内には、多様なフィッシング・エリアのほか、ホテル、レストラン、テニスコートや、オートキャンプ場、バーベキューなどのアウトドア施設がある。釣り場やキャンプ場など、まさに自然環境資源が観光に活かされているという点で、私たち調査メンバーはこの民間施設に大いに関心を抱いた。そして、ぜひ、調査対象に取り上げたいと思い、現地を訪れてフィールド観察を行うとともに、支配人へのインタビューを実施した。

【調査実施方法】

対象者： 「FISH・ON! 鹿留」支配人
実施日時： 2004年10月16日（土曜日） 15:00～17:00
場所： 「FISH・ON! 鹿留」本館会議室
質問者： B 自然と観光班 4名（井川・神村・北川・鈴木）

【インタビュー記録】

①どこから来る人が多いのか

東京、神奈川、埼玉方面が主で、千葉、静岡、長野がそれに続きます。県内からは少なく、今後、PRに努めたいところです。

②都心からのアクセス状況はどのようなものか

とても良好です。土日は中央道が混雑することもあります。平日なら八王子から1時間ほどです。

③外国からの方も来るのか

アジア系の方に加え、最近では欧米系の方も来場されますが、比率では数パーセントです。

④どの季節が一番賑わっているのか

大型連休や夏休み、特にお盆、そして10月と年末年始です。やはり賑わうのは春から秋にかけてです。

⑤「FISH・ON! 鹿留」の魅力は何か

自然環境に恵まれたなかで、「釣り」をじゅうぶん堪能できることです。鹿留川の水の美しさは誇りです。

⑥釣り堀の魚の管理の仕方はどのようなものか

養鱒所から仕入れた魚を放流しますが、ねり餌などは使用禁止としており、川を汚さないよう配慮しています。豊富な水量があるため、魚の管理に特段なことはありません。ただし、死んだ魚の除去は徹底して行います。

⑦野生の魚にはどんなものがあるのか

「FISH・ON! 鹿留」の魚はほとんど放流したのですが、ニジマス、ヤマメ、イワナの自然孵化したものがいます。

⑧鹿留の自然の特徴は何か

鹿留の自然の魅力は、何と言っても水と緑です。秋には紅葉も見られますが、林業で栄えた土地であることから針葉樹の多いのが特徴です。また、山野草や蝶など昆虫が多く、訪れる人を楽しませてくれます。

⑨野生動物について

キツネ、タヌキ、クマ、シカ、イノシシが出るほか、カワセミなど、鳥も多種みられます。

⑩宣伝やアピールの方法について

パンフレットやホームページ、そして、テレビ局や釣り雑誌の取材などによります。

⑪「FISH・ON! 鹿留」を運営するうえで気をつけている点は何か

特に「安全」「キレイ」「満足」の3点に気をつけています。「安全」に関しては、施設や設備の点検・改善に重点を置いています。「キレイ」に関しては、ここの溪流の水は下流にそのまま流れているので、水を汚さないように気をつけています。また、場内清掃では人工的ゴミの回収に力を入れているほか、トイレや流しの清潔感を保つよう気をつけています。「満足」に関しては、ひとことで言うと「CS」(customer satisfaction=顧客満足)です。「FISH・ON! 鹿留」は管理釣場ですから、お客様に満足いただけるよう魚の量、質、種類にこだわっています。また、地域に根ざした産業であるため、地元との協調が第一と考えております。

3.3.2 都留市役所 産業観光課へのインタビュー

都留市の観光振興のために市では具体的にどのような施策や方針が考えられているのだろうか。実際に担当の方にお話を伺おうと思い、市役所産業観光課を訪ねてインタビュー調査を行った。

【調査実施方法】

対象者： 都留市役所 産業観光課 観光振興担当 宮下さん、高部さん 2名
実施日時： 2004年11月5日（金曜日）10:00～11:30
場所： 都留市役所ロビー応接室
質問者： B 自然と観光班 3名（井川・北川・鈴木）

【インタビュー記録】

①都留市の観光政策について

近くの富士五湖地域では年間100万人の観光客を呼び込むことに成功している。市としてはその観光客の一部でも都留に呼び込みたいと考えているが、交通アクセスの状況などをみても、素通りされる、通過点となってしまっているというのが現状である。目玉となる施設がほしく、戦略を練ることが難しい状況。

そんななか、「参加学習体験都留」というコンセプトで「宝の山ふれあいの里」をPRしていて、近年、利用者が増えつつある。「芭蕉月待ちの湯」も、比較的多くの人に来てもらっており、今後も観光振興のための拠点としていきたい。特に、今後は芭蕉ゆかりの地であることをもっとPRしていきたい。

②リニア見学センターについて

リニア見学センターは県の施設であり、技術はJR東海のもの。8年間で約100万人が訪れた。市としては、訪れた人には誰でもリニアモーターカーに乗せてあげたいという思いがあるのだが、県やJRとの兼ね合いもあり、なかなかアピールしにくいということがある。

③登山客へのアピールについて

登山客へのアピールとしては、「二十六夜山～月待ちの湯」の登山コースをアピールしたい。いまのところ、市内で宿泊する施設が少なく、多くの登山者は日帰りか、または富士五湖周辺まで泊まりに行く。平成18年度には「和戸の森 和みの里」がオープンする予定であり、コテージに宿泊もできるのでPRしていきたい。

④観光振興政策を遂行なさるうえで直面しておられる難題やご苦労

県にも協力してもらえる体制にはあるのだが、これといった観光の目玉を提示しないと実際難しい。「八朔祭り」もこれから目玉の行事にしたいと考えている。県内には〔八朔祭りの知名度が〕わりと浸透したので今度は全国に向けて発信していきたい。とにかく観光に関してはこれからもまだ伸びる余地があると思う。先にもお話したように、まず都留にきてもらうための目玉となる場所が必要。あとは資金の問題。また、観光協会の積極的な働きかけも必要だと感じている。

3.4 他県・他市との比較考察 —— 調査メンバーの出身地を事例に

3.4.1 都留と石川県

都留と、筆者の出身地である石川県とを比較すれば最大の相違点は海のある／なしであろう。石川の市町村で海のないところは珍しく、多くの人びとは海の恵みとともに生活している。それは食生活のなかにもみることができ、筆者の実家では必ず一日一度は魚介類が食卓にのぼる。石川県内には特徴的な砂浜がいくつかある。羽咋市の「渚ドライブウェイ」は砂がきめ細かく普通車でも走れる砂浜で、夏休みには海のすぐ側に車をとめ海水浴を楽しむ人たちの姿を見ることができる。門前町の「琴ヶ浜こと鳴き砂の浜」は歩くと砂がキュッキュッと音を立てる砂浜で、ドラマの撮影が行われたこともある。釣り好きな人は、個人で漁船を所有し、休みには朝早くから沖へ出て行く。観光客が釣り目的で来る時もあるが、台風や石油タンカー座礁事故による海洋汚染などの影響によってさえぎられることもある。けれども海好きには、時に見せるその荒々しい姿さえ愛おしく思えるのである。

都留は生命の源たる水が豊富である。水との関連でいうならば、地元の滝としてまず思い浮かぶものに、輪島市と珠洲市の境にある「垂水の滝（白糸の滝）」が挙げられる。落差 15m で、水量的にはたいしたことはないのだが、ただ海に直接落ちるという点は特徴的だ。また冬には日本海の強風がその水を巻き上げて、水の落ちない滝となる。

都留に来てしばらくして、筆者は五月病ではなく山に囲まれるその閉塞感に悩まされた。目の前に水平線を見ていた人間にとって四方八方が山という状況はあまり落ち着くものではない。しかしそれと同時に思ったのが、地元にもそびえる高い山のことである。石川の山といえばおのずと「白山」が思い浮かぶ。白山を見ることがなかなかできない能登の人間のあいだでは、海の方こうに時折姿を見せる「立山」の方が身近な存在である。

川でもそうだ。都留は桂川がしゅこん（鬚根）のように広がっているが、石川県でそのような大きな川は「手取川」くらいしかないうえ、その流域面積および規模は隣県の庄川や九頭竜川と比べると小さいような気がする。

観光や歴史的な視点に転じると、金沢の「兼六園」には丁寧に手入れされた庭園があり、松や紅葉などがみごとな枝を広げわれわれを迎えてくれる（写真は兼六園の琴柱灯籠）。観光客の集団も多いが、静かに庭園の木々との対話を楽しむ人の姿も見ることができる。庭園の所有者であった前田家の家紋が梅であったため、梅だけが集められた庭もある。ちなみに金沢市の花は都留と同じ梅である。



そんな地元の特産物といえば海産物である。もずく、なまこ、くちこ、このわた、など、奥地へ行けば行くほど、おそらくあまり知られていない食材が見かけられる。逆に、金沢に向かって行けば行くほど増えていくのは和菓子である。都留もそうだが城下町にはたいてい和菓子がある。そして独特の文化がある。都留に甲州織があるように、金沢には加賀友禅や加賀漆器そして金箔工芸がある。能登で日常にもよく使われる輪島塗も全国的知名度は高いようだ。

現在、石川県が力を入れている観光政策は外国人観光客の誘致である。ポスト大河ドラマのロケ地という課題のもと、日常生活のなかに何気なく存在する資源の観光化、知的好奇心の充足を可能とする環境の設備など、最終的には世界水準の知的観光都市を目指しているようである。

(北川 瑤子)

3.4.2 都留と長崎市

都留の観光政策は、都留市もさることながら山梨県行政レベルでの取り組みも活発なようだ。都留市や山梨県は富士山をはじめ、山や川などの自然を観光資源として活かしている。筆者の出身地である長崎市では、市内の「出島」や「グラバー園」「平和公園」などの名所を観光地としており、市での取り組みが活発なようだ。また、「精霊流し」や「くんち」「ランタンフェスティバル」などの行事も観光の目玉となっている。ただ、従来のやり方ではマンネリ化して観光客は増えないので、「わからんまち体験長崎さるく博‘06」のように、市民参加型のイベントによって観光客を増やそうという動きがみられる。

長崎には、都留のように、県外から登山客が訪れるような規模の山は少ない（と筆者は思う）。「稲佐山」は、毎年、夏にフォーク歌手のさだまさしがコンサートを行うので少し有名かもしれない。ここにはロープウェイが通っていて頂上からの夜景がきれいだ。そのほか、島原には噴火で話題になった雲仙普賢岳がある。

長崎市内を流れる浦上川は長崎港に注ぐ。そのほか、市内の人工的に整備されたところに細い川が流れている。しかし、それらを流れるのは、都留のように、富士山から流れてくるようなきれいな水ではない。川よりも、むしろ海がきれいだ。長崎は、実は海岸線が日本一長い県だそうである。

市内の観光スタイルを見る限りでは、自然を観光の資源としてあまりうまく活かしきれていないように思われる。

特産品についてしてみると、「出島」を窓口として中国や南蛮と貿易をしていた歴史的な背景が、食文化や民芸品に大きく影響しているといえよう。たくふく（卓袱）料理、ちゃんぽん、皿うどん、カステラ、中華菓子、茂木びわ、ビードロ、べっ甲などが挙げられる。

(井川 絵美)

3.4.3 都留と沖縄市

沖縄は、「海に囲まれた南の島」という地理的条件からみても都留とは環境がまったく異なる。山梨の観光が富士山をアピールしているのに対し、沖縄では海をおもな観光資源としている。筆者の地元、沖縄市には、アメリカをはじめ、アジア諸国、ヨーロッパなど20数カ国の人びとが住んでいる。1974年（昭和49年）10月に「国際文化観光都市」を宣言して、「明るく住みよい街」「平和で豊かな街」「文化の香り高い美しい街」を目標に、「調和のとれた国際都市」を目指している。その歴史的背景から、異国情緒漂う雰囲気をもつ街自体が観光名所になっているが、なかでも、市の南にある「プラザハウスショッピングセンター」、市の中心にある「中央パークアベニュー」、「空港通り」などのショッピングゾーンは現在の沖縄市を代表する観光名所となっている。また、沖縄市の一部は、嘉手納基地が占有しており、嘉手納町、北谷町の3市町をまたいでいる。

沖縄は珊瑚でできた島なので、山と呼べるような山が少ない。山に囲まれた都留とは正反対の環境だ。植物に関しても南国特有の植物が数多くみられる。それらを活かして、市の北部には沖縄を代表する観光名所「東南植物楽園」がある。約40万㎡の広大な敷地に色鮮やかな熱帯の花が咲き乱れる沖縄随一の熱帯植物園である。沖縄市内で見られる街路樹には、アカギ、イスノキ、オオバナサルスベリ、ベンガルボダイジュなどがある。また、街路樹の根元にもいろいろな草花が息づいている。このような街路樹が町並みを彩るのも沖縄特有かと思う。市北部の具志川市、石川市の境界線付近には森が広がり、イタジイ、ヤブニッケイ、オキナワウラジロガシ、ヘゴの木などが生い茂り、山原と変わらぬ植生が広がっている。植物だけでなく、リュウキュウカラスバト、イボイモリ、リュウキュウハグ

ロトンボ、カラスヤンマ、コノハチョウなど山原特有の動物たちも生息している。

沖縄には山が少ないため、川も少ない。実際、川と呼ばれている川もほとんど溝川状態で、都留のように水の澄んだきれいな川は少ない。そのなかで、沖縄本島内最大の流域面積を誇る「比謝川」は、「沖縄こどもの国」を上流として嘉手納町の水釜の海に注いでいる。「沖縄こどもの国」には、動物園、世界爬虫類センター、バードウォッチングデッキ、手作り郷土館、昔の沖縄の生活を再現したふるさと園、野外ステージなどがあり、週末は家族連れで賑わう。都市化とともに川の様子もずいぶん変わってきたが、水がきれいなところにはサワガニ、カワゲラ、カワニナ、グッピーなどが生息している。また、ガマやヨシ、浮き草などの水辺の植物も見ることができる。

市の東部、太平洋につながる中城湾の干潟や海岸線には、多種多様な海辺の動植物が生育している。またその近くにある「泡瀬干潟」は、沖縄本島内では最大の干潟である。海草や多様な小動物が生息し、渡り鳥の飛来地でもあり、沖縄市では現在、国や県の協力のもとに、海のエコロジーパークとしての整備・活用を進めている。

沖縄市は、スポーツ選手の冬場のトレーニング地としても広く利用されている。温暖な気候とスポーツ施設が整備されていることがその大きな理由で、プロ、アマ、を問わず、野球をはじめサッカーや陸上競技の選手の利用も多くなっている。

沖縄市の特産品には、琉球王朝時代から親しまれている味覚や、木工、陶器、三線などの伝統工芸品がある。味覚については、近年、健康食品が注目を浴びているなかで、沖縄で産出される食材のもつ健康への効果や、食文化のもつ意味が再確認されている。そして、さまざまな国の人びとが住む沖縄市だけにその食文化は実に多彩だ。アメリカや中南米、アジア諸国の味覚が楽しめるのも沖縄市ならではの魅力であり、しかも、それらの食が融合した無国籍の料理も数多い。沖縄市の味覚として具体的には、泡盛、アワセそば、ちんすこう、ハチミツ、海草こんにゃくなどが挙げられる。また、伝統工芸では「知花花織」（旧美里村知花、登川地域などを中心に、村内で伝わった織物技術）がおおよそ1世紀ぶりに復元復活され、より多彩なものとなっている。

(神村 幸恵)

3.5 調査活動を終えて

都留は自然に恵まれているが、観光という点で鑑みた場合、それを資源として利用するのはとても難しいことだと感じた。どこの地域もその壁には少なからずぶち当たっているのであろうが、自然が豊かであるという特徴をうまく使う道を探すことは、都留にはとてもプラスになるものと思われる。ただ、それをどのような方法で実践していけばいいのか、どのような可能性がありそうかについては、筆者には今のところが妙案が思い浮かばない。(北川)

都留の自然と観光について調べてきてわかったことは、目玉となる施設がないために、市や観光協会も苦心しているということである。しかし、なにも、新たに大きな施設を造らなくとも、都留は自然環境が豊かで、城下町として栄えた歴史ももっているし、同時にまた、最先端の技術によって造られたリニアモーターカーの試験場もある。古い歴史と最先端の技術が混在した、興味深い街だと思う。筆者の提案としては、富士山をはじめ、都留の山に登りに来た登山者や鹿留へ釣りをしに来た人たちを、都留のまちへ呼び込み、まちのなかのことを知ってもらうことがまず必要だと思う。(井川)

参考文献・資料

都留市観光協会、2003、「都留市 トレッキングマップ」

FISH・ON! 鹿留 「“FISH・ON!” for all time for all style for all ANGLERS」 (パンフレット)

「百科事典マイペディア 電子辞書版」 (日立システムアンドサービス・平凡社、2003年)

「都留市役所ホームページ」 (<http://www.city.tsuru.yamanashi.jp/>)

「山梨県庁ホームページ」 (<http://www.pref.yamanashi.jp/>)

「山梨県総合教育センター ホームページ」 (http://www.kai.ed.jp/97river/htm_katura/turushi.htm)

「Fujigoko Cyber City ホームページ」 (<http://www.fujigoko.co.jp/tsuru/adven1.html>)